町並みかわら版

第九十六号

柳井市白壁の町並みを守る会
事務局（眞田裕）
℡ 090－1012－4204

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆
金魚ちょうちん祭り

柳井市白壁の町並みを守る会
河本　昌記

流行り病も一段落してほぼ完全版となる祭りが開催された。時短と大きな制約の中で開催された昨年と違いほぼコロナ前と同規模の内容での開催となり集客も大いに期待できるとあって我々も以前と同じような物販の形式、いや過去最大規模での販売を決定した。

結果から言うと過去最高となる販売となるのだが始まる前には以前のように人が集まって来てくれるのかと大きな不安もあった。

いざ祭りが始まるとそんな不安も一瞬にして吹き飛び、祭りに足を運んだ多くのお客さん、ボランティアで物販を手伝ってもらった中高校生、守る会の有志の皆々様、どの人も皆待ちわびていたんだなというのがわかる一日だったように思う。

特にボランティアで手伝ってもらった中高校生は休憩をとるのもままならない位忙しく動いてもらい、祭りの熱量がしっかりと伝わる夏の1ページの思い出となったのではなかろうか。彼ら彼女らにしてみればずっと記憶に刻まれたものと思われる。

販売補助で大活躍のボランティアの中高生スタッフ

祭りに足を運んでくれたお客さんも皆一様に楽しそうな表情で柳井の一夜を満喫してもらっているように思え、より多くの人に柳井に興味関心を持ってもらえるきっかけになったのではなかっただろうか。

昔からハレとケという例えがあるように正にハレの一日で、祭りの持つ生へのエネルギーを感じられる瞬間であり多くの人々が待ち望んでいた一夜であったのではなかろうか。

願わくばこの先、何十年もここ柳井で金魚ちょうちん祭りが開催され、たくさんの人に活力が与えられますように・・・。

別会場でも忙しく働く中高生スタッフ

和の情緒あふれる 第二十三回八朔の船流し

柳井中学校美術部副顧問
松田　和子

令和五年八月十八日（金）午前十時四十五分より、柳井市の伝統行事「八朔の船流し」が行われ、柳井中学校の女子十四名が浴衣姿で参加させていただいた。

写真提供：岩谷昇平氏

「八朔の船流し」は、旧暦八月朔日に長さ約四十五センチの手製の屋形船（頼母船）に、和紙で作ったひな人形をのせて川に流し、五穀豊穣を祈念する行事で、大正時代まで行われていたものを平成十二年に復活させたもの。今回で二十三回目を迎える。今年は、曇り空の下、時折小雨が降る中で実施された。

髪を結い上げ、華やかな浴衣に身を包み、頼母船を手にした十四人の柳井中生が、金魚提灯が舞う白壁の町並みをしなやかに歩く姿、そして、船を柳井川に流しながら祈る姿は、見る人に感動を与え、そこだけ時間の流れが変わったかのような、和の情緒あふれる圧巻の美しさがあります。

平成二十七年に柳井中学校に赴任し、美術部顧問として、この行事に関わらせていただいてから九年。毎年撮りためてきた写真は多くの思い出を語ってくれる。今年は、潮の満ち引きとの関係で時間の調整が難しいため、登校日と重なり、十四人の浴衣の着付けと髪結いを短時間で行うという、例年に比べて大忙しの日程となりました。そんな状況の中、ボランティアでいつも生徒の着付けをしてくださる着

付け教室の河高先生とお弟子さん三人や中学校の先生方にお手伝いいただき、何とか時間に間に合わせることができました。

修繕作業中の美術部のみなさん

また、今年は「白壁の町並みを守る会」の依頼により、老朽化した十九艘の頼母船を美術部の生徒が補修を担うこととなりました。生徒たちは、船の土台を磨いたり、壊れた屋根や柱を修繕したり、和紙人形を作り直したりする作業を心込めて丁寧に行いました。贈呈式では、ねぎらいの言葉を木阪会長にかけていただき、自分たちの頑張りが地域の役に立つことができたことで、生徒たちは喜びと誇らしい気持ちでいっぱいだったに違いありません。

修繕終了しての引き渡し式

ただ、残念なのは、コロナ禍以前は多くの報道陣が取材に訪れたり、写真家の方々が撮影したりと、人々に知ってもらう機会がありましたが、最近は見学者も少ない状況が続いています。

この和の情緒あふれる柳井の伝統行事を、ぜひぜひ、多くの地域内外の人々や外国の方たちにも楽しんでいただけたらと思います。そのためには、柳井の特色ある伝統行事をもっと外国人向けに多言語で紹介するポスターを作成したり、SNSで発信したりと、多くの人に知ってもらうことができれば、訪れる人が増え、柳井に住む人々の自信や誇りも高まるのではと考えます。

柳井の地図絵図

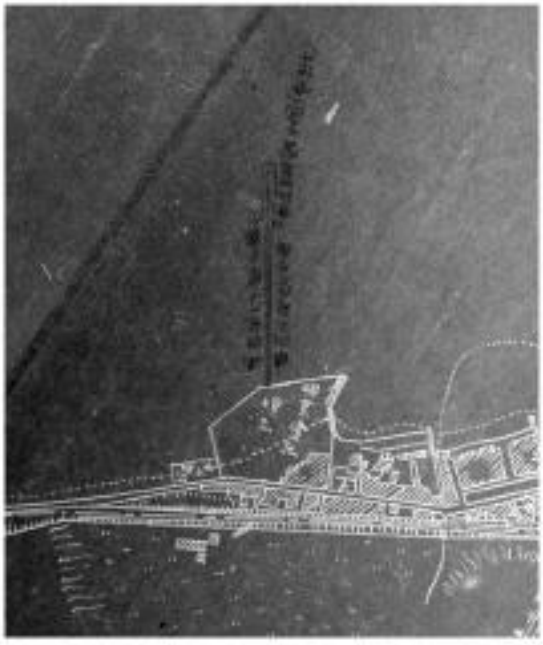
岸田稔明

第三十九回　柳井港修築計画平面図（山口県文書館蔵）

今回は、山口県文書館所蔵の『柳井港修築工事一件』に附属している『柳井港修築計画平面図』を取り上げる。

柳井港は、前回紹介した柳井西港に対して柳井東港とも呼ばれた。第二十六回、第三十三回でも取り上げたが、明治十七（一八八四）年、近藤唯治が私財を投資して築造し、汽船の寄港地にした。近藤氏の屋号から、通称「ぬしや港」、「ぬしや波止」とも呼ばれていた。

大正十一（一九二二）年に、柳井興業株式会社がつくられ、「ぬしや波止」の東側を含む一帯の埋立に取り組み、柳井港駅が開業した同じ年の昭和四（一九二九）年に完成した。柳井町は県の補助を受け、翌年の昭和五（一九三〇）年に、鉄筋コンクリートの桟橋を架設した。その当時の計画図面が、「玖珂郡柳井町桟橋架設県費補助一件」（山口県文書館蔵）に添付されている。この桟橋が架設されたため、大阪商船などの汽船が定期に停まるようになり、四国、九州、関西方面への往来が便利になった。



【玖珂郡柳井町桟橋架設県費補助一件附属図面（山口県文書館蔵）】

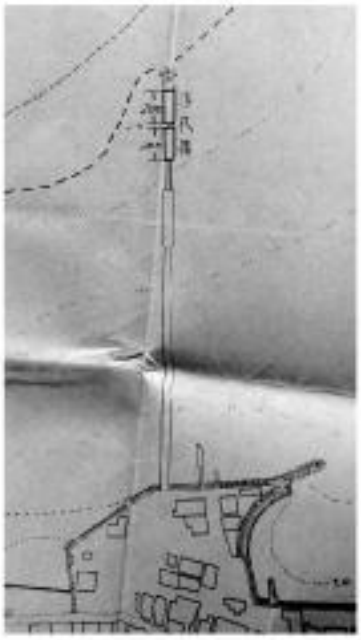
しかし、港は南に面していたため、台風などの荒天時には船を桟橋につけることができず、非常に不便であった。更に、度重なる災害により半ば崩壊した状態になった。

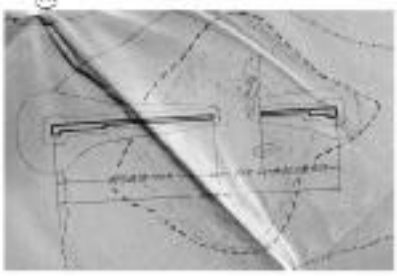
【柳井港（絵葉書）】
（柳井町八百長書店発行）

そこで、県は港を修築することにした。まず、沖合の裸島の東西に防波堤を設けることにした。島付近の浅瀬を利用して、東側一三〇メートル、西側六〇メートルを築造し、島の防波域三五メートルを合わせ、延長二二五メートルとした。

また、既設の桟橋の先端に長さ二〇メートル、幅八メートル、高さ二・六五メートルの浮桟橋を二個設置することとした。

事業は昭和十一年度から十四年度まで（一九三六～三九年度）の四年間、総工費は二十五万円で、財源の一部は国庫補助により賄い、残りは県と地元が負担した。昭和十二（一九三七）年に起工式が執り行われ、昭和十五（一九四〇）年に完成した。こうして柳井港の基本的な施設が整備されたのである。





【柳井港修築計画平面図（山口県文書館蔵）
下は裸島東西の防波堤、左は浮桟橋】

商都柳井の歴史　その廿三

松島幸夫

柳井津商人の心（五）
商人の心得を記した家訓

古市・金屋・久保町・亀岡・土手町・新市には、豪壮な商家の建物が長々と立ち並んでいました。商都柳井の隆盛が、家並みに表れていました。徐々に近代的な家屋に建て替わりつつありますが、今でも古市金屋辺りには昔ながらの街並みが残っています。本瓦葺き白壁土蔵造りの家を建てるには、大金が必要だったことでしょう。

さて私が子どもの頃には、豊富に資産がある家を「ふげんしゃ」と言っていました。漢字で書くと「分限者」です。発展には限界があることを分かっていて、用心を欠かさない人たちのことです。「盛者必衰」の理を心得ていました。一時的に大金を手にしても、散財をすればたちまちのうちに、貧乏暮らしに身をやつします。柳井の豪商たちは分限者として、常に心を引き締めていました。また子孫に守らせるべき心得を書き記しました。いわゆる「家訓」です。

かつては全ての商家に家訓があったことと思われます。しかしながら時代が変ったために、古い時代の先祖が示した心得は現在に通用しないと、捨ててしまった家がほとんどです。

焼いてしまった家訓は、先人たちが考えて、考えて、考え抜いた生き方です。今の時代に生きる人間にとっても貴重な人生訓が含まれているはずです。

過日、ある商家に残された「家訓」を見ることができました。亀岡通りで金物屋を営んでいた宮本家の家訓です。

家訓

一、衣服などの身の飾りは、美なるより、質素なる方が価値あるものなり。
二、食物は、美味よりは素菜なる方が、却って長命するものなり。
三、商法は多売薄利と云いうが、妙手なり。早く成功を希望することなかれ。
四、店家は、買人より買わずに遅る人を丁寧に対応すべし。品物を持ち帰った後に返却するも、買ってくれた人以上に取り扱うべし。
五、金銭の保証人には決して立つことなかれ。

右の五条を堅く守り、すべて欲を薄くして世人に対せよ。長く変わらず終始一貫と云うが、これが世渡りの基本である。

古歌に　「世の中の道はと問えば
　とにかくに欲の浅瀬を行けと答え」

大正四年 御大典の月 吉日
常三郎　謹んで誌す

家訓の第二条に素菜の言葉があるので、宮本常三郎は『菜根譚』を熟知していたと察せられます。「菜根譚」は明（中国）の洪自誠が著した本で、「美味な食事よりも、野菜の根などの粗末な食事をしなさい。貧乏な生活ができる人は、大事を成し遂げることができる」と説いているのです。古い時代における中国の書籍ではありますが、日本が近代化する中にあっても、貴重な人生訓として読み継がれました。

ゆっくりと変化した時代においては宮本家の家訓で充分であったでしょうが、激変をする現代社会にあっては、次の条文を付け加えたいと思います。

六、時代の流れを凝視し、将来の社会に必要な商品・サービスを見抜くべし。

資料館便り

『女神!!』

副会長　山近　絹代

当館にある金魚ちょうちんが♡型に飾られた「フォトスポット」が人気で、写真を撮られている皆さんの笑顔が最高で、見ているこちらも幸せな気分になります。

今までにも当館に来られた方がSNSなどで「詳しく説明してもらえた。」や「親切にしてもらった。」など書いていただいているのを拝見することがあります。

また近々山口県の情報サイトに「白壁の町並みを観光する前に町並み資料館で情報収集するのがおススメ！」と紹介されるようです。たくさんの方々の目に留まって、来館されるお客様が増えたら良いなと期待してます。

先日、とても嬉しいことがありました。午前中に来られた鳥取からのご夫妻にいつものようにご案内して町並みにお送りしたところ、夕方に再び来館されて、「あなたのおかげで、柳井を満喫できました。」と仰っていただきましたSNS上で良かったという感想を拝見するのも嬉しいことですが、直接言っていただくと、こちらもお礼が言えるので、とても幸せます。この時も「嬉しいです。励みになります。」とお伝えすることができました。

また大阪万博でのインバウンドのお客様を山口県に案内する企画を県から依頼されているエージェントの方が当館に来られ、「お鐘金魚さん」に注目されていました。注目度大です！

「お鐘金魚さん」は相変わらず好調です。ここ半月の幸運の報告をご紹介。

・五十歳を過ぎて正社員採用されました。
・母親の難病が治りました。
・仕事が沢山舞い込みました。
・山が売れて、借金がすべて無くなりました。「誰も買わないような山なのに売れた。あなたは女神だ!!」（笑）

お礼を言っていただくことはあるけど、「女神」と言われたのは初めてです。

お客様に喜んでいただけるのなら何にだってなりますよ。幸運と夢の橋渡しをして、一人でも多くの方の幸運の報告が聞けるように、しっかり「お鐘金魚さん」をお守りしま～す!!

【編集後記】

★今年の金魚ちょうちん祭りでのしらかべかき氷屋の運営をすべて一切合切若手会員に任せたのは大成功であった。実を云うといままで中心になって運営を行って来たロートルの男三人組は全員身体に何らかのガタが来てやろうとしても使い物にならなかったのだ。一方ほぼ同年代の山近絹代副会長は元気一杯。最強のセールスフォースだった。女性には敵わん。

★潮位が読めずいつもハラハラドキドキする八朔の船流し。昨年とは違い今年はほぼどんぴしゃりの水位。色とりどりに美しく着飾った乙女たちの浴衣姿、いつ見てもいいですね。この三年間コロナ禍で三蜜を避けるため報道機関への告知を敢えて控えて来たが次回からは大々的に告知を再開いたしましょう。

（事務局　皿田）

令和５年度第２四半期
柳井市町並み資料館入館者数

	令和5年7月～9月	令和5年9月現在累計
町並み資料館	5494	316,305
	前年同期比　150%	
松島詩子記念館	954	112,935
	前年同期比　138%	